

会 議 録

(文責：立石)

会議の名称	那珂川市社会教育委員の会 第2回会議		
開催日時	令和7年8月25日(月) 19:00～20:10	開催場所	那珂川市中央公民館 第3学習室
出席者	【委員】 山崎委員長、柴田副委員長、池田委員、坂井委員、渡邊委員、結城委員、 田中委員、谷川委員、佐藤委員、大島委員 【事務局】 寺師係長、立石		
配布資料	・会次第 ・資料1 令和7年度福岡県社会教育委員連絡協議会第1回評議員会資料 ・資料2 令和7年度那珂川市教育研究会教育講演会実施要項 ・資料3 令和7年度福岡ブロック社会教育委員研修会実施要項 ・資料4 令和7年度九州ブロック社会教育研究大会開催要項		
事務局	1. 委員長あいさつ 2. 報告 3. 今後の予定 4. 議題 ○テーマに関する調査・研究について 市民文化祭の展示について、現在、参加団体の募集がされており、9月上旬が期限になっている。9月になったら、市内の三中学校と打ち合わせしたい。今回は初めての試みで、他の参加団体数が分からず、スペースの問題があるので、小学校の展示は、行わないことにしたい。どうなるか分からないが、今後検討していきたい。幼稚園や保育園の作品展示についてもご意見を頂いたので、市内のいくつかの園に声かけさせていただいている。 その他に連携について、意見がなかなか出ないので、委員長と副委員長と打合せし、まずは、各団体が日々の活動や行事をされている中での課題を出していただき、その中から、うちはこうやっているとか、そういったところで意見交換し連携を模索していったらどうかということになった。令和5年度に		

委員長	各団体の活動を発表していただいたが、課題については話していないので、今回は話していただきたい。今日はまず、委員長と副委員長から、公連協と文化協会が抱える課題や考えていることを話して頂きたい。 打合せの中で副委員長から、これから先のことについて、課題を話し合いながら、改善していく委員会にしてもいいのではないかという意見があった。各団体でいろいろな話をしていきながら、団体の今後の発展の仕方を考え、つくり直していけるような委員会にしていきたい。 公連協は、区によって全然色が違う。ある区ではずっとやれていることが、ある区では全然できていなかったりする。やり方も違う。いろいろと問題点が出てきている部分で、感じていることのお話をさせていただく。これまで各区の公民館長さんは、皆さん社会教育という言葉で学ばなくても、館長になった時点で、区民の人たちをどうつなげていこうかという地域貢献の意識があった。自分も館長の時は、何か地域の人とつながっていく流れをつくっていて、それは当たり前と思っていたが、今は区の中で行事を減らそうとする館長さんがいる。コロナ禍の中でもやれることをやろうとされていた区は、コロナが明けた後の行事がスムーズに動いている。一方で何もしなかった区の中には、行事を館長さん自体が減らそうとしているところがある。やはり行事は人と人をつなぐという社会教育の根本だと思っている。なぜやらないといけないのと、つながりを絶っていくような考えの方がいる。長年務めておられる館長さんからも感じることもあり、危機感がある。一方で、どうにかしなければいけないと言われる館長さんもいて温度差を感じている。 調べてみると以前もそういう時期はあり、社会教育についての理解がなかったので、当時の行政職員の方たちが一丸となって、研修会や勉強会をされて、館長さんたちも学ばれて、しっかり地盤として固まっていた。もう一度社会教育の研修会をやっていく必要があるが、昔みたいに研修会を開催しても、多分そんなには受入れてもらえない。どういう内容でどういう形で社会教育の考え方を広げていけばいいのか。改善点をこれから見つけて、4、5年かけての計画になると考えている。 コロナ前に戻そうという気は一切ない。コロナを経験したからこそ、新たな人と人とのつながりづくりが必要。今の子どもたちは生まれたときからスマホがある。自分たちとは感覚が全く違う。その子たちが地域に入り込んだときに、ギャップを感じることもあるので、時代に合わせて変わっていく組織づくりをしていかなければならない。那珂川では岩戸校区はすごくいい。モデル地区だと思っている。地域のことをまず優先にしている。区長さんが地域を引っ張っていてすばらしい。これ
------------	---

副委員長	から先もう一度、このつながりづくりを大事にしていきたい。 文化協会は、昔は個人の趣味に市から支援してもらってというような見方もあった。活動していく中で、社会性を身に付けて、市民に還元してきたことで段々良い見方をしてもらうようになった。活動がもっと活発になれば、抱えている課題を解決したらもっと還元できる。 どの団体でもそうだが、後継者がいないことが課題。仕事を落ちつかれた方たちが中心になってお世話をして頂いている。そういう方たちの年代が上がってきて、熱心な方がもう卒業されてしまっている。その後続く方も、今は仕事をされる年齢が上がってきたので、60歳で自由になって活動をしましょうということではなくなってきた。 もう一つは、卒業される方と比べて入ってくる方が少ない。若い世代、子どもたちの加入も少ない。中学生、高校生、大学生が一番少ない。皆さんには、こういう方法で増やせるのではないかとか、自分たちはこうしたよねというようなことを教えて頂きたい。何も考えていないわけではなくて、昨年从小中学生を対象に夏休み体験教室を開催している。英会話教室で、自己紹介をしたり、数を数えたり、そのくらいの楽しい内容で開催しており、とても好評で、また来年も来るねと言ってもらった。昨年は6年生が多かったがなぜか今年は中学1年生だけだった。その辺りを色々な関係の方がおられるので、こんな方法だともう少し集まりやすいなどアドバイスを頂きたい。
委員長	各団体、悪い面ばかりではないので、良いところも発表してもらいたい。団体の代表ではなく、個人として思ったことでもいいので、今の話の中で何かご意見はあるか。
委員①	皆さんのすばらしい活動を他の方々に気づいてもらうために海外との連携を模索したらどうだろうか。副委員長は地元と一緒に、幼い頃の記憶だが、海外の方と一緒にいられたというイメージがある。この前、私も見習って海外の方を受入れてみた。那珂川のどこに連れていく、どういったものを見せるかを考えた時に、地元や団体の活動にスポットが当たるのではないかな。現在、那珂川が海外とどういう交流をしているかを教えていただきたい。
委員②	婦人会では、もう10年近く、保健センターで年に2回、6月と1月に韓国の看護師さん、お医者さんと交流している。15人くらい来られる。医学の研修をされながら、日本人が長寿になったのは食事のおかげで、料理を教えてほしいということで教えている。韓国の方にも韓国料理を作っていただいて、言葉が通じなくても身振り手振りで交流している。
副委員長	国際文化交流サークルが30年ぐらい前にできて、以前は、アメリカのサンマルコスと姉妹都市の提携をしていて、1年おきに来たりしていたが、日本

委員長	から行った方々の交通事故があつて、それ以降交流が無しになったと聞いている。こちらに来るのは小学生が多く、小学校を中心に受入れていた。今、定期的に交流をしているのは先ほど言われた韓国。金先生という方が、NPOの財団で那珂川をととても気に入られていて拠点にされている。最初は博多港の近くを拠点にされていたと聞いた。それがもっと田舎がいいということで、片縄のサニーの裏側に来られて、その後、畑を使いたいということで、不入道の土地を借りて活動をされている。 もう一つは韓国の任実郡という南畑みたいな雰囲気の都市と交流している。郡の役所の職員さんと那珂川市の職員を中心にした国際文化交流サークルが交流を始めて今も続いている。姉妹都市にしようとしたが実現できていない。大統領が変わると政策が変わり、親日ではなくなることがある。私たちは、人と人との交流というか、気持ちで交流をしているつもりなので、政治がどうなっても交流はずっと続いている。そのサークルが中心になって、グリーンピアなかがわがある時は年に1回、1泊のキャンプをしていた。市内の外国人にももちろん声をかけるが、仕事をされているのでそんなに大勢の方は参加されなかった。そこで、九大の国際交流担当の方に声をかけて、九大の留学生を中心に交流した。今でも続けており、結構参加者が増えている。キャンプ場が閉鎖になってからは、日帰りのバスハイクとバーベキューを毎年11月に恒例でやっている。10月の広報でスタッフを募集してお知らせはしているので、よかったらご参加いただきたい。毎年お知らせしているので、もううんざりしているかなと思いつつも、まだ伝わってないと感じている。他の行事も含めて、これでもかというぐらいPRをしなければいけない。 他に何か意見はあるか。 【意見等なし】
委員長	今回は、他の団体の課題等も意見交換していきたい。先ほどの国際交流についても、団体として参加協力ができるかもしれないと感じた。こういう内容を話して会の横のつながりを強化していきたい。こういうことをやっているけど、持続性に課題を感じているなど、話題、課題をご報告頂きたい。資料は必要ないが、あれば、事前に事務局に提出していただきたい。よろしいか。 【異議なし】 5. その他 次回会議は、11月25日(火) 19:00～とする。

